

2025年度 帰国生選抜 「専門試験」出題の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験作品利用
日本画			
油画	モチーフとして譜面台が中央に置かれた空間で、受験生に数分間の音楽を聴いてもらい、その響きの印象もふくめ自由に絵を描いてもらった。選ばれ曲は20世紀初頭に書かれた現代音楽であり、抽象絵画の誕生のきっかけとなった音楽の流れを汲むものであった。目に見えない音楽を画家としてどのように描くかといったテーマは、美術史の中で多くの画家たちが繰り返し探究してきたものである。モチーフの譜面台を描いても、聴いたその音楽の印象から色合いや筆致は変わるだろうし、もちろん抽象絵画へと展開するかもしれない。そうした感応する力を通して見えてくる、総合的な作者の表現力をみるのが出題の意図であり、言語の壁を軽やかに越える音楽をテーマにすることも帰国生選抜試験の出題の一つの意図でもあった。	実技作品の制作意図や今後の制作の方向性、将来の展望などを質問し、日本語によるコミュニケーションの力も判断材料とした。	●
版画			
彫刻			
工芸			
グラフィックデザイン			
プロダクトデザイン			
テキスタイルデザイン	鉛筆デッサンでは、観察力（対象を的確にとらえているか）と基礎的描写力、理解力（出題の意図を把握し理解しているか）を問うことをねらいとし出題しました。モチーフとして配布した「糸苧」は日本の伝統染織道具のひとつです。「クマザサ」も日本特有の植物です。帰国生には馴染みがないと思われるものですが、日本文化への興味を刺激するものをモチーフとして出題しました。色彩構成では、表現力（独自の色彩感覚で形態との調和がとれた表現ができていないか）、伝達力（制作のテーマが伝わるように表現されているか）に加え、完成度（表現材料の扱いが丁寧で、仕上がりが優れているか）を評価することをねらいとして出題しました。	受験者が授業についていくことのできる十分な日本語能力と、持参作品の造形力を評価しました。テキスタイルデザインを学ぶ熱意や志望動機、社会でのテキスタイルの役割についてどのように考えているかを明確に説明できるかを評価の対象とし採点のポイントとしました。面接時に専門試験の解答に対し、自己評価を促し、客観性や向上心を問うことを目的とした質問を行いました。	●
建築・環境デザイン			
情報デザイン メディア芸術コース			
情報デザイン 情報デザインコース			
芸術	出題内容を正確に理解し、論述の着眼点が的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、文章を構成し、まとめる力があるか、といった点が判断基準になります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	芸術学科で何を研究したいのか、受験生の知的能力や知的関心がその研究を進めていくのに十分か、芸術の理論や歴史に関する基礎知識はもっているか、などを判定します。	×
統合デザイン	理解力=問題の把握・理解が正しいか 観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか 発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか 描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか 視点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか	入学志望理由が明確であるか 本学科の内容を理解しているか 授業に必要な対話力・語学力はあるか 授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース			
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザイン コース	「手」は全ての造形・創造を生み出す中心的役割を担っています。そして、演劇や舞踊では感情を表現する重要な手段でもあります。基礎的なデッサン力と共に、自由な発想や構図で、独創性や構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を創出することも出来ます。また、演劇舞踊デザイン学科の特色でもある、「光と空間を意識した構成」を表現してください。光の表現・捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなります。用紙の縦横レイアウトは自由ですが、画面構図は大きな採点ポイントとなります。自由な構成や構図で独創性と構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、実空間の形を捉えるだけでなく、ドラマチックな設定を思い浮かべ、心の中の情景を描くことも可能です。魅力ある個性的な創造力と描写力のバランスがとれているかも重要です。出題者の意図を読みとり、創造力で挑戦し採点者を感心させ感動させる解答を期待します。	面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。作品は、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として制作したもので幅広いラインナップが望ましいです。作品解説において、明快なコンセプトとそれを実現するための表現を的確に説明出来ているかを評価の基準としています。また、決められた時間内に説明ができるかも重要な要素です。説明や質疑応答時に、日本語でスムーズに会話ができるか、戯曲・台本を読めて議論できる語学力を有しているかも判断します。この学科への志望動機や目指したい方向性が明確かなども重要です。	●